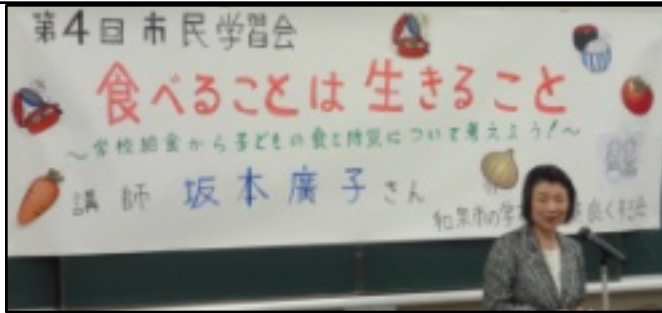


参議院選挙投票日  
7月10日(日)

# 泉北教育

NO.2047 2016.6.27.  
発行 泉北教職員組合  
〒594-0071 和泉市府中町6-12-2  
0725-41-1953 Fax0725-44-6570  
E-mail senboku@gf6.so-net.ne.jp



和泉市の学校給食を良くする会 第4回市民学習会  
～学校給食から子どもの食と防災について考えよう!～  
「食べることは生きること」お話は坂本 廣子さん

## 和泉市 給食会 学校給食

# 給食で伝統食の経験は防災拠点

学校給食調理業務の民間委託に反対する「和泉市の学校給食を良くする会」主催の第4回市民学習会が6月25日に開催されました。お話は、幼児期からの食育を30年以上前から提唱し、日本の食育実践の先駆け、NHK教育テレビの「ひとりでできるもん」の産みの親でもある社会派料理研究家の坂本廣子さん。

### 災害に備えて 各家庭で食料備蓄

神戸市在住で、阪神淡路大震災を経験されたお話からスタート。「行政まかせにせず、普段食べている食材を各家庭で1・5倍購入し、順次使用して備蓄すること」「子どもが食べられる生活をどう保障するかが、復興のバロメータである」とのお話が印象的でした。

そして避難所となる学校の「給食場は防災の拠点」であり、自校方式堅持の意義が強調されました。

### 学校給食で子ども に伝統食の経験を

長寿の方が多い地域を研究してきた経験から、日本の伝統食材が有効であると

の話がありました。例示された食材の、「豆類」「海藻」「魚」「緑茶」などは、家庭で供される機会が減っている。学校給食で子どもたちに経験させることに「食育」の意味があるとのこと。

調理業務が民間委託されて、果たしてそれが可能か、多くの参加者が不安に感じていることです。

### 料理することが 自尊心を育てる

最後に、幼稚園・保育園の頃から、子どもが自分で料理を作る実践が紹介されました。失敗しながら、自分で料理を完成させる体験を幼少期にこそ行うこと。そこから自尊心がはぐくまれ、大人になってもその経験は生きるはずだ。

南海トラフの地震が予告されるなかで、さまざまなことを学んだ学習会でした。

# 泉北教組定期大会を開催 今年度の方針・予算を決定

泉北教組は、6月14日に定期大会を開催し、今年度の運動方針と予算を決定しました。

大会参加者からは

和泉市学校給食調理の民間委託が石尾中学校で始まった。事故こそ起きていないものの市教委の言う「経費節減」とは全く逆の状況になっている。元の直営方式に戻すべきである。

中学校チャレンジテストにより、学校には多くの矛盾が持ち込まれた。府教委に、学校の評定を変更させる権限が無いのは明白である。チャレンジテストは廃止するしかない。

泉北教組主催のキャンプファイヤー講習会に参加して多くのことを学んだ。今後の学級運営に活かしていきたい。

との発言がありました。

当日は来賓として「忠岡母親大会連絡会」よりごあいさつをいただきました。また、泉北教組専門委員より「9条の会の活動について」、大教済事務局より「自動車事故による教員免許失効を防ぐための取組について」の特別発言がありました。

「戦争法」発動反対。子どもたちや自衛隊員を戦場に送るな。